

自家農園で自然栽培したグアバから作った オーガニックコスメ、お茶やピューレで、肌も体内も美しく

一般社団法人エンジェルガーデン南国 南国にしがわ農園 アフロディア事業部



西川 きよ氏

高知県南国市の一般社団法人エンジェルガーデン南国 南国にしがわ農園のアフロディア事業部の西川きよ氏は、1999年にオーガニック化粧品のメーカー(有)アフロディアを創業した(2019年1月、アフロディアを上記に移転し事業部とした)。

アフロディアを開業した動機は、自身が強度の敏感肌だったことだ。過去に無添加をうたう様々な化粧品を試したが、なかなか満足のいく化粧品がなく、「本当に自分が使いたいと思える化粧品、信頼できる化粧品を取り扱いたい」と思ったのである。西川きよ氏は、外側からの化粧品によるケア以上に内側のケアの大切さを実感し、「体内美容商品」の自社開発も併行して行った。添加物を入れず、素材そのものの力を活かした商品を目指すなかで、後の転機となるグアバと出会った。グアバは、ビタミンCの含有量や抗酸化作用、ダイエット効果で知られる南国の果物である。

「グアバを徹底的に研究したい」。当時社長であり、母である西川きよ氏の思いを継承した長男の西川隼平氏は、香南市のグアバ農園に弟子入りして、一から栽培を学んだ。高知県からの事業認定を受け、高知大学や高知県農業技術センター茶業試験場など公的機関の協力を得て、製品化に成功した。2011年には、居抜きで入手したビニールハウスで自家農園を開いた。農園の有機JAS認定は2013年、加工物のJAS認定は2017年に取得することができた。

自家農園で栽培したグアバの力

自家農園で栽培したグアバの研究は、「高知大学土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業」の一環として実施され、約800時間におよぶ研究と300時間の講義を受けた。研究の成果は学会でも発表された。こうして、海外産などのグアバ茶と比べても自家農園のグアバ茶はポリフェノール含有や糖質・脂質の吸収抑制効果が高いことが確認された。

お茶の製品化と併行して、高知大学の吉金優博士の協力のもと、グアバを使った化粧品の研究と商品化に取り組んだ。グアバ葉から抽出したエキスにはシミの原因となるメラニンを作り出す酵素や皮膚の保湿成分ヒアルロン酸を分解する酵素の働きを抑えること、さらには高い抗酸化能をもつことが確認された。自家栽培のグアバの美容有効成分が、化学化粧品に匹敵すること、特に美白成分は一般的な美白剤の20倍の含有量であることなどが検証できたのだ。(試験管レベル)

一般社団法人としての農園の開業

グアバ葉エキスを使った化粧品は「天海のしずくオーガニック」のブランドでラインナップ。洗顔料から始まる基礎化粧品が5アイテムにミネラルファンデーションとアロマオイルを加えた7アイテム。価格は、原料から自社で育てているからこそ出来る設定にした。「オーガニック化粧品は使い続けてこそ効果を実感しやすいんです」。

2015年の販売開始後、品質の高さから美容雑誌で記事になり、様々なメディアにも取り上げられた。東京ギフト・ショーなどの見本市への出展と地道な営業活動で首都圏に展開するオーガニック専門店を中心に販路が広がっている。

2017年4月からは、特別支援学校の教師を早期退職したご



グルメ&ダイニングスタイルショー 高知商工会議所ブースに出展した「天海のしずくオーガニック」、「土佐国グアバ茶」



摘み立てのグアバ葉を手作業で洗浄し、天日干しした後、じっくり焙煎する。

主人の西川一司氏が、自家農園を障がい者就労支援施設「一般社団法人エンジェルガーデン南国 南国にしがわ農園」として許認可を取得し、運営を開始した。代表理事の一司氏、そして長男の隼平氏、次男の絢太氏ら5人が運営を行っている。施設の利用対象者は知的・精神・身体障害者で定員は20名。

南国にしがわ農園は、自社の強みを活かし本当に豊かで幸せな未来モデル(農福連携・新規就農・有機自然栽培・6次産業化)に取り組んでいる。

「豊富な資源(ヒト・モノ・カネ)がない地方の私たちでも奮闘しています。ぜひ、お越しになってご覧ください」と西川きよ氏。色白で小柄な女性だが、発するエネルギーは南国の太陽のように熱い。

●一般社団法人エンジェルガーデン南国 南国にしがわ農園
TEL.088-802-8801 <http://www.nishigawa-nouen.com>